

緑と歴史が共生する街

提案要旨

1. これからのまちづくりの基本方針：

中核市である宇都宮市は高齢者人口約 20% (21 年 12 月) と超高齢社会に近づきつつあり、また、計画対象地区を含め中心市街地の人口は周辺部に比べ減少傾向にある。高齢化に対応した街づくり施策が求められていると共に、特に若い世代の人口流入と定着を図る施策も必要であることはいうまでもない。

一方、都市再生に投下するための財政的基盤も脆弱化していることから、開発中心の都市再生は困難である。これからは地域の空間資源をできるだけ利用したきめ細かな保全・再生型かつ住民参加型の自前のまちづくりが重要である。

そこで本計画案では『地域固有の空間資源を活用・再生することによる住んでみたくなるまち、訪れてみたくなるまちの形成』を基本方針として、都市計画道路の敷設及び区画整理事業に連動し、以下のまちづくり指針を前提条件とする。

- ①緑資源・歴史的・文化的資源の保全・再生および生成を基本とする『環境共生型街づくり』を緑のネットワーク形成と連携しながら実践する。
- ②若い世代の定着、および来訪者の増加を促すための魅力づくり、およびチャレンジ・ショップ等多様なビジネス、市民活動を誘導・誘発する町空間の形成
- ③高齢者にやさしい安全で暮らしやすい住環境形成
- ④保全・再生可能な空き家のコンバージョンによる再利用
- ⑤空き地・駐車場の緑空間資源、ポケットパークとしての再生利用
- ⑥既成市街地空間の保全を前提とした街路整備および点在する景観資源の再生と修景による歩きたくまち（回遊性）への誘導
- ⑦清澄通りを始め、既存の街路網を魅力ある歩行者中心の街路空間として再生を図る。

緑化を推進・保全する



コミュニティ意識を誘発する



空家・空地を利用する



歴史的建築物を再生利用する



育成 旧日光街道の歴史を継承する



保全 歴史資源と緑資源を共生させる



緑のネットワーク～緑を媒介としたコミュニケーションの活性化～

小幡・清住町地区は住民同士のコミュニケーションを誘発する街路空間としての設え（しつらえ）は有していない。緑の保全・育成を媒介にして住民同士のコミュニケーションの活性化を図ることがコミュニティの衰退の衰退を防ぐとともに、環境共生型の住環境形成にも対応する。